2023年9月に開催された WOAHA 水生委員会のレポートへの 日本のコメント

(Annex 7, 8 水生コード ウイルス種である感染性脾臓・腎臓壊死ウイルス (ISKNV) の全遺伝子群の感染症のリストアップ)

【本文仮訳】

水生委員会は、コメントを検討し、コメントの大多数が「マダイイリドウイルス (RSIV) による感染症」の記載名称を「感染性脾臓・腎臓壊死ウイルス (ISKNV) のすべての遺伝子群の感染症」に変更する提案を支持していることを確認した。

水生委員会は、ISKNV のすべての遺伝子群の感染症の評価において提供された情報は、第 1.2 章の基準に適合すると結論付けた。水生動物の疾病をリスト登録するための基準は厳格であり、評価は RSIV、ISKNV、TRBIV を含むすべての遺伝子グループのリスト登録を裏付けるものであると改めて表明した。

水生委員会は、国際ウイルス分類委員会 (ICTV) が現在、メガロサイチウイルス属の分類と命名法を検討中であり、ISKNV 種と ISKNV 遺伝子群との混同を避けるために、この疾病のリスト登録には ICTV で新たに提案された名前を使用すべきであるというコメント (注: 2023 年 6 月の日本コメント) を検討した。水生委員会は、名称変更が ICTV によって検討中であることを確認したが、その決定と公表は、現在保留中であることを指摘した。水生委員会は引き続きこの問題を注視し、ICTV によって公表されればその新名称を採用する予定である。

水生委員会は、TRBIV 感染組織の利用可能性のため、TRBIV 遺伝子群検出のための検査方法の検証にはいくらかの制限があることに同意した。しかし水生委員会は、3 つの遺伝子グループすべてを対象とした様々な検査方法があることを改めて強調した (Kawato et al., 2021a, Koda et al., 2023, Kim et al., 2022)。特に TRBIV 感染組織を使用した検査の精度研究はまだ必要だが、この基準を満たすことの妨げにはならない。

(略)

コメント:

日本は、ICTV が公表する新名称を採用するという委員会の計画に賛成する。2 機関において疾病名称に用いられる種名が統一されることで、2 つの異なる命名法による混乱を防ぐのに役立ち、また、それらを統一するための作業も避けることができる。また、頻繁に名称が変更されると、関連する法令規則や貿易事務手続き上での混乱や学術的分野でも過去の発生履歴等を参照する際に混乱を招く恐れがあるため、最終的な名称が確定するまでは一時的に現在の名称を維持する方がより合理的である。引き続き ICTV とは継続的に連絡を取り、統一した命名に向けて調整することを提案する。まずは ICTV の作業スケジュールを把握することが、我々の作業計画を立てる上で有用であろう。

(Annex 9 コンパートメントの適用についてのディスカッションペーパー)

【本文仮訳】

水生委員会は、コンパートメント化により、懸念される疾病が非清浄な国または地域からの、清浄な水生動物の商品を取引する機会が提供されることを強調した。水生動物の疾病は根絶が不可能な場合が多いため、コンパートメント化は特に重要であるが、加盟国の中で広く実施・認識はされていない。水生委員会は、第4.3章の改訂は、コンパートメント化の要件を明確にし、より受け入れられやすいものにしてコンパートメント化への民間部門からの投資をより魅力的にすることを目的とすると強調した。

このディスカッションペーパーでは、コンパートメントを適用するさまざまな目的、適用時の手引きとなるハイレベル原則、および dependent・independent なコンパートメントの概念を提案している。これらの提案は、効果的なリスク管理のためのコンパートメントの適用をより明確にすると同時に、適用可能性のある想定状況の幅を広げることを目的とする。

ディスカッションペーパーは、2022年9月のレポートで回覧した簡単なアンケートに対する各加盟国からの回答と、フォーカルポイントワークショップからのフィードバックによって作成された。

水生委員会は、この章の改訂の方向性にとって特に重要な問題について、加盟国からの回答を促すために、ディスカッションペーパー全体に質問が含まれていると説明した。

加盟国は、質問への回答や第4.3章の改訂に関連するその他の事項を含め、ディスカッションペーパーに関するコメントを提出するよう求められている。

ディスカッションペーパーの問への回答：

- Q1. 4.3章コンパートメント化の改訂の指針として上記の原則(A~E)は適切か。そうでない場合、代替案を提案されたい。
→異論無し。
- Q2. これらの用途は、製品の種類、経路及び最終用途によって定義される、コンパートメントを適用する主な理由を網羅しているか。そうでない場合、代替案を提案されたい。
→異論無し。
- Q3. 改正後の第4.3章に2種類のコンパートメントの概念を含めることを支持するか。その理由は。
→支持する。各コンパートメントのステータスを変えうる疫学的要因の性質が大きく異なるため、2種類のコンパートメントの概念を含めるのは合理的である。
- Q4. dependent compartment は、independent compartment と同様に、養殖や栽培漁業向けの生きた水生動物を供給することができるべきか。もしそうであれば、どのような追加条件下でその取引を認めるべきか(例:疫学的独立性、ターゲットサーベイランス)。
→可能とすべきと思料する。池のような半閉鎖的な dependent compartment では、例示のような疫学的独立性や強化されたターゲットサーベイランスの実施と共に、病原体フリーな飼料の使用、使用機具の適正な洗浄や消毒、ベクターの侵入防止なども重要な追加的条件となる。ただし、各国・地域の実情が異なることから、本章に記載された条件を参考に、輸出入国が二国間協議の中で具体的な条件を定めることができるよう、これらの条件は例示として示すべきであり、全ての加盟国に対する要求事項にすべきではない。
- Q5. 上記のコンパートメント化の原則は、コンパートメントの設定と認識のために適切なハイレベル原則となっているか。検討すべき修正または追加原則があれば提案されたい。
→6項については、Q7の回答を参照されたい。他項については、異論無し。
- Q6. 上記の原則を含める4.3.2の改訂を支持しますか。また、一連の原則の中で扱うべき追加の重要事項や要件はあるか。

→異論無し。

Q7. 独立性、認定及び試験研究機関からの報告の義務付けに関する要件を含む、第 4.3.6.条の改正を支持するか。その根拠又はさらなる意見を示されたい。

→試験機関の要件として、独立性と陽性検出時の報告の義務化を見直すというアプローチを支持する。試験機関の認定に関しては、診断検査の信頼性が一定のレベルで確保されるべきだと我々も考えるが、これは、ISO17025 または同等の適用に加え、各加盟国で現在実施されている試験機関の品質管理システムによっても達成できる可能性がある。

Q8.水生動物の保健サービスの質に関する条文と、管轄当局の監督に関する条文への分割を含む、第 4.3.8 条の改定を支持しますか。その根拠又はさらなる意見を示されたい。

→異論無し。

(Annex 16 水生コード 新章第 5.X 章観賞水生動物の移動についての草案)

【仮訳】

第 5.X.4 条

国際取引する観賞用水生動物の適格性について

観賞用水生動物種の輸入に関連する水生動物の健康リスクを検討する前に、輸入国の所轄庁は、**関連する国内規制**と国際的な義務を参照し、その種が輸入について適格であることを決定しなければならない。

観賞用水生動物の種は、その保全状況（絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（CITES）に記載されているものなど）により、国際的な移動や取引が規制される場合がある。このような規制により、国際的な移動が禁止されたり、追加の輸入書類が必要となったりする場合がある。

観賞用水産動物の種（または種の分類学的グループ）は、輸入国の管轄当局またはその他の当局によって侵略的であると認定されることもある。そのような種は、輸入国の生物多様性、生態系、産業、または公共の快適性に与えるリスクのため、取引、所有、または養殖が禁止される場合がある。

コメント:

第 5.X.4 条の第 1 パラグラフに記載されている「関連する国内規制」について、輸入国が関連する国内規制を参照して適格性を判断するのは当然に行うことであり、コードにおいて特別言及する必要が無いものとする。加えてただ *relevant national regulations* と言うと、どこまでの規則を考慮すべきかが不明であり曖昧である。委員会には、この表現でどのような規制を想定しているのか、明確にいただきたい。